

令和5年度

黒部市教育センター事業の点検評価

報告書



令和6年3月
黒部市教育センター

目 次

目 次	1
I 令和5年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	2
II 点検評価の結果	
1 児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1) 市教委・市教セによる学校訪問	3
(2) 学級経営研修会（市内初任教員）	4
(3) 学力向上研修会	5
(4) 特別支援教育研修会	6
(5) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）	7
(6) 郷土を学ぶ研修会	8
2 黒部国際化教育の充実	
(1) 黒部国際化教育組織部会	9
(2) 企画・運営・評価部会	10
(3) 外国語教育研究部会	11
(4) 英会話科等担当者定例会	12
(5) 外国語教育の推進に関わる研修会	13
(6) 外国語科等の等の授業の充実及び環境整備	14
(7) 帰国児童生徒教育研究会	15
(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育	16
3 生徒指導・教育相談の充実	
(1) いじめ問題等研修会・いじめ見逃し0の取組	17
(2) 生徒指導主事等研修会	18
(3) 教育相談の充実と体制づくり	19
(4) 不登校児童生徒に関わる取組、教育支援センターの充実	20
(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進	21
(6) 特別支援教育コーディネーターの活動	22
(7) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業	23
4 学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	24
(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用	25
(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）	26
5 迅速な教育サービスの提供	
(1) 情報提供	27
(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	28

I 令和5年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

2 点検評価の対象

令和5年度の黒部市教育センター事業

3 点検評価の方法

(1) 「令和5年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる分野に基づき、個別事業ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員9名において、客観的な視点で検討する。

【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	大坂 由喜子	小学校長会会長（村椿小学校）
運営副委員長	柴田 由明	中学校長会会長（清明中学校）
運営委員	小倉 信宏	学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	庭田 順子	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	浦田 武治	こども支援課長（黒部市市民福祉部）
運営委員	齊木 裕	小学校教育研究会会長（宇奈月小学校）
運営委員	川端 浩嗣	中学校教育研究会会長 生徒指導連絡協議会会長（明峰中学校）
運営委員	平田 恩	帰国児童生徒教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	飛弾 英樹	小中学校教頭会副会長（若栗小学校）


(3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。


Ⅱ 点検評価の結果


1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上



事業・研修会名	1-(1) 市教委・市教セによる学校訪問（通常訪問を含む）
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導助言し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 通常訪問では、各教科等の授業を参観し、部会協議会において、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。○ 1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、初任教員や若手教員の授業を中心に参観する。授業後の懇談では、若手教員の悩みや話を聞くことを中心に面談をする。必要に応じて、学級経営や授業の進め方、子供の対応等について指導助言する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none">・ 通常訪問では、東部教育事務所指導主事とともに部会協議会において指導助言を行うことができた。学校運営や授業等について気付いたことをまとめ、各学校に報告した。また、校長研修会において、学校訪問研修の概要（前期・後期）をまとめ、報告した。・ 市教委・市教セによる学校訪問では、日頃困っていることや悩んでいることを話せるよい機会となった。子供の対応に悩んでいる若手教員が多く、根気よく子供と真剣に向き合うことで子供との信頼関係ができてくること、一人で悩まずに周りを頼るものの大切さなどを伝えた。また、具体的な指導場面におけるよい点を認めることで、初任教員や若手教員の自信につながり、次への意欲をもつ手助けができた。積極的に質問する教員には学級経営や教科指導、生徒指導等に関する課題を共有し、助言にあたることができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none">・ 通常訪問は、各校のニーズに応じて、研修日程や研修内容を主体的に各学校が決定できるようになっている。市教委・市教セによる学校訪問は、若手教員の応援をすることを中心に、負担にならないように進めていくようにしている。また、各校、各教員の課題に応じて実施できるように、事前の相談や打合せを丁寧に行っていく必要がある。また、悩みのある教員には、継続的な働きかけを行っていく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・ 課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

事業・研修会名	1－(2) 学級経営研修会（市内初任教員）
内容・方策	<p>黒部市内着任の新規採用教員が集まり、学級経営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、気持ちを楽にしたり、横の連携を強めたりし、互いに相談し合える体制を構築できるようにする。</p> <p>今年度は回数を増やし、5回の経営研修会を実施する。</p> <p>＜学級経営研修会（新規採用者対象）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1・2回【4/5 5/12 参加者13名】 <ul style="list-style-type: none"> ・始業式前、着任1ヶ月後と相談が必要となると思われるタイミングを見計らって研修（グループトーク）を実施。 ○ 第3回【7/7 参加者12名】 <ul style="list-style-type: none"> ・指導講話 講師：庭田 順子 学校教育班長 ・振り返りのグループ協議（悩みや課題に対する手立て等） ○ 第4回【8/25】授業力向上に関する講演会に参加 ○ 第5回【1/12】これまでの振り返りと今後に向けて
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【第1・2回】4月5日、5月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が安心して仕事をしていくためには同僚性の構築が重要だと思われる。教員数や年代の関係もあり、学校内だけでは横のつながりができにくいため、今年度13名の黒部市内の新規採用者の集まりの場を設定した。気軽に困っていることを出し合うことで、「みんな同じ気持ちなんだ」と安心感が生まれ、和気藹々と話し合いながら、次への活力を養っていた。同期としての仲間意識を高め「同期の先生となら気軽に話せた」「学校では聞きづらいことを仲間と共有できてよかった」「同じ状況の人と話せて気持ちが楽になった」「こういう機会があつてうれしい」等の感想が寄せられた。 <p>【第3・4回】7月7日、8月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の目線に立って考えるといった指導講話や、授業中の子供への具体的な声かけ方を含めた授業改善の講演会を通して、改めて子供一人一人の気持ちに寄り添って考えた指導をする大切さに気付くよい機会となった。 <p>【第5回】1月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも黒部市の教員仲間として子供たちのために一緒に尽力して欲しいという気持ちをこめ、生徒指導にも活用できる人間関係づくりゲームを行い、仲間意識を深め、まとめた。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市として参加してほしいと思う研修会と県の初任者研修の日が重なっていたことがあった。県の研修予定を考慮しながら、日程を組むようにしていく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。


事業・研修会名	1－(3) 学力向上研修会（令和のとやま型教育推進事業）
内容・方策	<p>昨年度から始まった「令和のとやま型教育推進事業」を今年度は明峰中学校区の明峰中、桜井小、若栗小の3校で、「基礎的読解力・数学的思考力・情報活用能力等の育成～道具としてのICTの活用を図りながら～」を研究課題として、取り組んだ。</p> <p>○研究推進校での取組 ○黒部市令和のとやま型教育推進事業講演会</p> <p>【日時・場所】8月25日（金）宇奈月小学校多目的ホール 【演題】「味わい深く学びながら資質・能力を育む ～授業づくりとICT活用の考え方～」 【講師】東京学芸大学教育学部 准教授 大村 龍太郎 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を始めるにあたって、明峰中学校区の3校で共通理解を図るために、東部教育事務所 主任指導主事 峠 修一先生にご講話をいただいた。学力向上プログラムⅢ期と一体的に推進し、自ら課題を見つけて取り組む問題発見・解決能力の育成の重視について説明された。 ・推進校では、共通の研究課題を基に自校の児童生徒の姿から具体的な研究テーマを設定して研究を進めた。 ・教育推進事業講演会では、大村龍太郎先生から「子供が学びを深めるという本質を追うこと」の重要性を具体的な授業を例にして説明された。ICTは慣れることで便利さを体感しながら使っていくこと、教師も子供も自己調整を繰り返しながら学んでいくことなどの大切さを語られた。 
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の推進事業から解明したことを生かし、来年度は研究校を絞って深まりのある研究をしていく。市としては学校運営マネジメントの視点で、地域、学校のよさを生かして進めるカリキュラムマネジメントの研究を進めてはどうかと検討してる。


事業・研修会名	1 - (4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援を必要とする児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○ 特別支援教育に関する講演会（実施、受講者 112 名） 【日時】 令和 5 年 8 月 3 日（木）14:00～16:00 コラーレ 【講師】 魚津市特別支援教育コーディネーター 印田 幸代 先生 黒部市特別支援教育コーディネーター 林 真奈美 先生 【演題】 「気になる子供の理解と対応」</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>・ 例年、黒部市のみで行っている特別支援教育研修会を、今年度は魚津地区教育センター協議会の事業と兼ねて行った。 具体的な話が聞きたいという昨年度のアンケート結果から、身近におられる経験豊かな二人の特別支援教育コーディネーターを講師に迎えて研修会を行った。 支援のポイントの「ほめあう」などを隣の人と一緒に実践してみながら研修を進めた。他にも気になる子供には特に「そうだよね」と共感的な姿勢で対応すること、それぞれの子供に合った柔軟な対応をしていくことなど、すぐにも実践していけそうな具体的な方法を教えていただき、受講者からは大変好評だった。</p> <p>【支援のポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① できたことをほめる。 できないことを叱らない。 ② 視覚的な情報提示 ③ 短い文で順を追って指示 ④ 安心できる環境 ⑤ 善悪やルールははっきり指導 ⑥ 温かく見守る 
課題・改善	<p>・ 教職員からは、すぐに現場で生かせることを教えてほしいといった声が多い。実践につなげるには実技を交えながらの研修になると効果的だと思われるので、研修内容によってはグループ活動が可能な小規模の研修会が向いている場合もあり、目的に応じて研修会のスタイルを検討していく。</p>
今後の方向性	<p>・ 令和 6 年度は、夏季休業中に講師を招聘して市のみの研修会を行う。特別支援教育担当のみでなく、幅広い教職員が参加して研修できるよう啓蒙する。</p>


事業・研修会名	1－(5) 情報教育研修会（情報教育研究委員会）
内容・方策	<p>1人1台端末の活用は、学校間、教師間で差があることから、今年度は、どのような力を身に付けなければいけないのかを児童生徒自身が理解すること、また指導する教職員にも周知することを目指した。</p> <p>○ 第1回情報教育研修会 【日時】6月7日（水） 吉田科学館 参加13名 【講師】日本マイクロソフト株式会社 【演題】教育版マイクラフトを活用したプログラミングに関する研修</p> <p>○ 第1回～3情報教育委員会【6/28 9/26 2/15】 黒部市小中学校の情報活用能力育成に向けての具体的取組</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>・授業の中にタブレットが使用されることが増えてきたが、プログラミング学習についてはどのようなものを、どこで取り入れていくことが効果的なのか課題であった。そこで、マイクラフト社が講師となって、プログラミング学習の体験をする研修会を行った。子供たちが興味をもつと思われるマイクラフトのゲームを使った学習プログラムを体験した。面白くプログラミングを体験できるが、どの教科の学習としてどう取り入れるか、ゲーム性が強すぎるのではないかといった課題が残った。</p>  <p>【情報教育研究委員会の開催】6/28 9/26、2/15</p> <p>・「情報活用能力の育成」を目指し、文部科学省からの情報活用能力の系統表を基に「黒部市情報チェックシート」を作成し、市内小中学生に自分の今の状態をチェックしてもらい実態把握をした。</p> <p>・各学校や黒部市全体の結果をもとに、指導すべき項目（ローマ字入力、図や表の活用、プログラミング）を共通理解して情報活用能力の育成に取り組んだ。</p>
課題・改善	<p>・情報活用能力の系統表から、どんなことを指導すべきかということを経験者がまず理解することができた。児童生徒も目当てをもちながら取り組むことができるようになった。活用状況において依然学校間や教職員間で大きく異なる点があるので、進学時のことを考慮して、身に付けるべき力をつけておくように継続して取り組んでいきたい。</p>
今後の方向性	<p>・令和6年度は、課題として見えてきたことを基に、教職員の研修を深め、授業や校務におけるICTの効果的な活用を図っていく。</p>


事業・研修会名	1－(6) 郷土を学ぶ研修会
内容・方策	黒部市の教職員に①黒部市の自然や歴史の特色を理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもってほしい、②市内の施設等を見学し、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間等の学習指導に生かしてほしいという目的で年1回、半日程度でまわれる場所を選定して「郷土を学ぶ研修会」を行っている。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【実施日】 令和5年7月28日（金） 【場所】 富山県北方領土史料室（生地コミュニティセンター3F） 四十物昆布、生地周辺散策 【講師】 ・千島歯舞諸島居住者連盟富山支部 支部長 濱松 禎高 氏 ・四十物昆布代表取締役会長 四十物 直之 氏</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・黒部市や施設についての話はもちろんのこと、学校教育に関連させながら熱い思いを語っていただき、参加した教職員は、大変有意義だったと感想に書かれていた。（参加者13名）</p>
課題・改善	<p>・黒部市に異動してきたり、新規採用になったりした教職員にとって黒部市を知り、学習にも生かすことができるいい機会だと思うが、参加者が少ない。夏季休業中など参加しやすい日時にし、研修の意義を今一度伝えて、参加者を集うようにしたい。</p> <p>・来年度は宇奈月町周辺を考えている。ジオパーク等も含めた研修ができればよいと考えている。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。</p>



2 黒部国際化教育の充実

事業・研修会名	2－(1) 黒部国際化教育組織部会
内容・方策	<p>黒部国際化教育の各事業について、方針や内容等について審議する。また、企画・運営・評価部会、外国語教育研究部会、英会話科等定例会で検討されたことについて情報共有を図る。</p> <p>○ 年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 英語の指導に関する年間指導計画について ・令和5年度の成果や課題、令和6年度の方針について
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【第1回】6月26日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の黒部国際化教育の全体計画や英語の指導に関する年間指導計画、英語サマーキャンプや姉妹都市交流事業について協議した。小学校で「読み、書き」が入った外国語科になってからの英語離れに対して、積極的に授業参観を取り入れ授業改善を促していこうといった意見交換がされた。また、「This is Kurobe」の活用についても検討した。 <p>【第2回】2月15日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のアンケート結果や児童生徒の様子から、黒部国際化事業における改善点を協議した。「英語検定の受検率及び取得率、児童生徒への英語の指導に関する意識調査」について、作成した資料をもとに実態を説明した。外国語教育研修会で「話す、聞く」活動を十分に行うことで、読み書きの活動もスムーズに行うことができるようになるということを学んだ。今一度、国際化教育の原点に立ち返り、「会話（やり取り）」を十分に取り入れた英会話科にしていくことの重要性を確認した。また、コロナ禍でしばらくされていなかった英会話科等の互見授業を積極的に取り入れて、授業者の研修の場を設けていくようにする。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の重点を明確にし、各専門部会の組織を生かしながら指導方法の改善や各種事業を展開していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、黒部国際化教育の在り方について、児童生徒の実態から、随時、市教委及び校長会と協議をして改善に努める。

事業・研修会名	2-(2) 企画・運営・評価部会																					
内容・方策	<p>外国語科等の取組が充実するよう、重点目標の共通理解を図るとともに、黒部市における取組状況の共通理解、成果と課題の確認等を行う。（参加者は市内全小・中学校の教頭）</p> <p>○ 今年度公開授業なしで、年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関するアンケート、英検3級以上取得者調査、「Enjoy talking」と「Speaking test」の集計等について ・令和4年度の英語に関する指導の成果と課題 ・令和5年度の英語に関する指導の年間指導計画について 																					
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【第1回】7月3日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科等の指導内容及び方法、黒部国際化教育の事業について、共通理解を図った。 ・英語の指導に関する年間指導計画について、令和5年度からの変更点を確認した。 <p>【第2回】2月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関する児童生徒・教員アンケートについて結果を確認し、今後の対応策について話し合った。 ・英検3級以上の取得率等について提示し、目標値と照らし合わせ今後の進め方について検討した。 <p>【英検3級以上の取得率(%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取得率及び受験率は昨年度より減少している。 <p>※第2次黒部市総合振興計画前期基本計画の中間目標（2022年）45.0% ※黒部市総合振興計画後期2027年目標値50%</p> <table border="1" data-bbox="459 1581 1278 1711"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得率(%)</td> <td>33.8</td> <td>39.6</td> <td>37.9</td> <td>33.2</td> <td>38.6</td> <td>30.0</td> </tr> <tr> <td>受験率(%)</td> <td>35.7</td> <td>50.4</td> <td>41.5</td> <td>36.4</td> <td>42.4</td> <td>31.4</td> </tr> </tbody> </table> 	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	取得率(%)	33.8	39.6	37.9	33.2	38.6	30.0	受験率(%)	35.7	50.4	41.5	36.4	42.4	31.4
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
取得率(%)	33.8	39.6	37.9	33.2	38.6	30.0																
受験率(%)	35.7	50.4	41.5	36.4	42.4	31.4																
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体の課題を共通理解し、その解決に向けての方策を考え、全小・中学校で取り組んでいく必要がある。特に、新学習指導要領に基づく付けたい力を明確にした授業づくり、コミュニケーション活動を大切に授業づくりを推進していく。 																					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。（ただし、組織を中学校と小学校3校ずつの持ち回りとし、年3回の開催とする予定） 																					

事業・研修会名	2－(3) 外国語教育研究部会
内容・方策	<p>今年度の年間指導計画における成果や課題等を集約し、より効果的な指導計画を作成することで、教員の授業力向上と児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年2回（7月、12月）開催する。 ○ 外国語教育研修会（魚津地区相互参加型研修会）の企画・運営を行う。 ○ 年間指導計画の見直し及び作成を行う。 ○ 部員は小・中各1名（中学校は英語科教員）及び小学校専科教員とする。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【第1回】7月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した黒部国際化教育に関するアンケート結果を確認し、授業改善について話し合った。外国語科における「読むこと」「書くこと」の現状や英語の指導に関する工夫や悩み等について、グループに分かれて情報交換をした。また、8月10日に開催する外国語教育研修会にて取り上げる内容について意見交換し、当日の役割分担をした。 <p>【第2回】12月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の年間指導計画の作成に向けて、各学校からもち寄った意見及び英会話科等定例会で出された意見をもとにして、変更すべき点を小学校と中学校部会に分かれて協議し、改訂作業を行った。また、各校の取組、評価問題についてなど情報交換し、今後役立てられるようにした。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けて児童生徒は「楽しい」「分かる」と思える授業になるように、「話す、聞く」活動のさらなる充実を考えた授業を進めていく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度は、ALT、JAT、JETと共に話し合い、積極的な授業改善を図っていく。


事業・研修会名	2-(4) 英会話科等定例会
内容・方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月1回定例会を開催し、ALT、英会話講師、市担当者、センター職員が年間計画に基づいて研修を行う。 ○ 授業充実のための研修、英語サマーキャンプの企画・運営、年間指導計画の見直し等を中心に行う。 ○ 1月下旬から順次ALT、英会話講師との面接を行い、業務の状況を確認したり、悩みの相談にのったりする。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて、毎月1回、定例会を開催した。ALT、JAT、JETが一堂に会して、情報交換を行う貴重な場となっていた。 ・授業を進める上での課題や改善点等を、グループに分かれて話し合うことを通してALTや英会話講師の指導力の向上を図った。 ・研修内容に合わせたグループ編成を考え、意見交換を図った。グループ協議の後は、必ず全体で意見を共有し、共通理解を図った。 ・市教委担当者が、英語サマーキャンプや児童センターでの英語教室の開催について説明することで、今後の見通しをもつことができた。 ・今年度は、公開授業がなかったこともあって、授業観察が少なかった。授業観察は互いのよさを学ぶよい機会であるので、意図的に入れていきたい。 ・英語サマーキャンプに向けて、ALTがそれぞれに工夫を凝らして児童生徒が楽しめる活動を準備していた。 ・英語専科教員が定例会に参加する機会を設けた。年間指導計画の見直し、外国語活動から外国語科、さらには小中のスムーズな接続に向けて、顔を合わせて意見交換を行った。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・黒部市の特徴であるALT、JAT、JETの配置を最大限に生かせるような授業の進め方、コミュニケーション活動等を考え、黒部市国際化の活性化授業について見直しできる機会を設けていく。また、英会話科等の評価問題について研修していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度は、定例会ではなく、外国語教育研究部会と一緒に年3回開催していく。

事業・研修会名	2－(5) 外国語教育の推進に関わる研修会
内容・方策	<p>学習指導要領の正しい理解と黒部市外国語教育の指導の充実を図ることを目指して研修を行う。</p> <p>○ 外国語教育研修会（魚津地区相互参加型研修） 【日時】 8月10日 14:00～16:00 黒部市国際文化センターコラーレ 【演題】 『聞くこと』『話すこと』から『書くこと』への流れを重視した授業 【講師】 富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【講話の主な内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 単元の目標設定について ② 聞くことの活動 ③ 話すこと（やり取り）の発表 ④ 書くためには <ul style="list-style-type: none"> ・英語で書くことは、書く前に、耳で音声を聞き、口で自分の意思でまねをしてといった聞く話す活動を十分に行うことが大切である。 ・聞くことの指導ではすぐに文字を見せずに音で理解するようにさせる。 ・書くためには「相手がいる」「目的がある」ということを意識させることが大事である。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・専科教員が増えてきて、外国語教育に関する研修会となると、参加者が限定されるようになってきた。来年度は、どの教科にもつながる「主体的で楽しい個別最適な学び」の在り方といった広いテーマで、外国語授業の視点から教えていただくような研修会を考えている。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は外国語を担当する教員だけでなく、楽しく充実した授業を考える研修会として、幅広い参加を促したい。魚津地


区教育センター協議会の相互参加型研修として実施する。

事業・研修会名	2－(6) 外国語科等の授業の充実及び環境整備
内容・方策	<p>各校の取組を紹介したり、黒部を題材とした教材を扱ったりして、授業の充実と環境整備にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒部市の目標を根底に据えた授業づくりや環境づくりについて、企画・運営・評価部員や外国語教育研究部員等と情報交換を行う。 ○ ふるさと黒部のことを英語で豊かに語ることのできる生徒を育成するための“<i>This is Kurobe</i>”を市内中学校2年生が作成し、市内小・中学校に配付し、活用する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「黒部国際化教育に関するアンケート」を実施し、児童生徒の回答及び学校質問紙の回答を集計した。それをもとに、外国語教育の充実に向けて、組織部会から意見をもらった。 ・外国語科等の取組について、年間計画を見直し、来年度に向けた指導計画を作成した。 ・今年度も市内中学校の2年生が教材“<i>This is Kurobe</i>”の改訂を行った。昨年度、内容について大きく見直したので、今年度は昨年度の項目をもとに調べていった。 ・“<i>This is Kurobe</i>”のデータを学校間共有サーバーに入っていることが周知されていないので、改めて伝える。 ・英会話科の目的が<i>This is Kurobe</i>の作成にならないようにし、会話中心の授業になっているか見直していく必要がある。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・黒部市国際化教育の目的「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成及び「ふるさと黒部を豊かに語れる生徒」の育成であることから、今一度年間指導計画を見直していく。 ・<i>This is Kurobe</i>の今後の作成、使用の仕方について検討していく。総合の学習で調べたことを英語にするなど、他教科との関連も考えていくとよい。 ・英語検定で行われている会話を取り入れた活動をするなど、やり取り（会話）の活動を充実させ、英語ですぐに答えられるような即興力を身に付けていくようにする。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

事業・研修会名	2-(7) 帰国児童生徒教育研究会
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活や生活様式に適応できるように支援する。(黒部市と YKK からの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める)</p> <p>① 保護者会やサマースクールの開催、会報「Access」の発行を行う。</p> <p>② 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。</p> <p>③ 各校および関係機関・保護者との連携を密にし、帰国児童生徒への援助・相談を充実させる。</p> <p>④ 海外・帰国児童生徒のためのハンドブック第 8 版を作成する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>① の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回保護者会 (6/17 中央小学校) 【保護者 8 名参加】 ・第 2 回保護者会 (12/2 中央小学校) 【保護者 11 名、子供 12 名参加】 <p>親子活動では、空き瓶を使ってスノードームを作った。懇談会では、滞在国と日本の学校生活の違いや家庭学習の進め方が話題となった。懇談会中、子供たち同士で室内レクリエーションを楽しみ、親睦を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマースクール (8/3 黒部市内) 【保護者 4 名、子供 6 名】 セレネ美術館で傘に模様をつけるワークショップを体験した。 <p>② の研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外研修報告 村椿小学校 教諭 坪野 裕貴 (書面発表) ・帰国児童生徒教育研究会 全体研修会 (5/25 教育センター) 「アメリカでの生活を振り返って」 講師: 萩野 真一 氏、萩野 裕美 氏 ・国際理解教育公開研修会 (10/31 黒部市立中央小学校) 「交際理解のこれから」 東部教育事務所 主任指導主事 浦田 栄信 先生 <p>③ の援助・相談について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会報 Access や教育センターのホームページ、YKK 教育相談室だよりで、一時帰国等の家庭にも広く情報を発信している。 <p>④ ハンドブックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の見直しをし、市内各学校に 2 冊ずつ配付した。県内の教育センター等にも配付する。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育について参加者が知見を深めることができるような研修内容を検討したい。 ・たくさんの保護者、子供たちに 2 回目の保護者会に参加してもらったことができた。今後も楽しんで保護者会やサマースクールに参加してもらえよう、魅力的な活動を工夫していきたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和 6 年度も継続する。

事業・研修会名	2－(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育
内容・方策	<ul style="list-style-type: none"> ・帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。 ・帰国児童生徒に対しては、一人一人に応じた学習指導を行い、外国人児童生徒に対しては、日本語指導を中心に行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小1名（3年生外国人児童）、たかせ小1名（3年生外国人児童）、清明中2名（1年生外国人生徒、2年生外国にルーツがある生徒）の付き添い指導をしている。外国人児童生徒が学習内容や教師の指示を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明することで、自信をもって活動に参加することができている。 ・たかせ小、村椿小、桜井小、中央小、荻生小、宇奈月小に外国の文化や生活についての掲示を貸し出し、国際理解のきっかけづくりに努めた。 (今年度6校利用) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が学校不適応を示してから、付き添い指導を始めても改善に長い時間を要する場合がある。気になる児童・生徒に早目に対応できるように、学校との連携を密にしていきたい。 ・学級担任と連携を図り、個々の児童に応じた指導を継続する。 ・個別指導や付き添い指導をしている外国人児童のよさを生かしながら学習ができるように、学習や学校生活の様子を担当等と共有していく。 ・帰国・外国人児童生徒が編入してきた場合、効果的な対応ができるように、これまでの個別指導において効果のあった対応を累積し整理しておく必要がある。 ・ハンドブックも効果的に活用してもらえよう、周知する。 ・掲示物の貸し出しの宣伝の時期、方法を工夫する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善をふまえ、令和6年度も継続していく。

3 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	3-(1) いじめ問題等研修会、いじめ見逃し0の取組
内容・方策	<p>①いじめ問題や関連して起こる不登校の問題について「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</p> <p>②いじめ見逃し0を目指す視点シートの活用、いじめの実態把握（認知件数の報告）を促し、市全体で共有して対応を考える。</p> <p>③「いじめ問題等研修会」年2回実施（4月18日、2月14日） ・小・中学校教頭を対象に、いじめの未然防止や早期発見、適切な対処について研修を深める。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>① 生徒指導提要の改定や現状に合わせて「黒部市いじめ防止基本方針」を見直した。</p> <p>② 毎月、各学校からの報告をまとめて校長会で対応を話し合った。暴力行為、いじめ認知について共通理解が必要である。</p> <p>③ 【第1回】4月18日 講師：黒部市教育委員会 学校教育班長 庭田 順子 先生 ・令和4年度の市内小・中学校のいじめ、不登校の状況について、資料を基に共通理解し、どちらも早急に取り組まなければならない喫緊の課題であるという認識を明確にすることができた。</p> <p>・年度当初に当たり、黒部市教育の方針や教頭の役割等について、全小・中学校教頭が共通理解を図り、職務上大切にすべきことを改めて確認した。</p> <p>【第2回】2月14日 講師：東部教育事務所 主任生活指導主事 梶尾 徹 先生 ・「問題行動等生徒指導上の諸問題及び保護者等の対応について」というテーマで講話をしていただいた。学校における児童生徒の心のケアについては、何気ない教師の一言が子供にとって良くも悪くも大きく影響を与えることがあることを再確認した。場面に応じた保護者対応についても具体的に教えていただいた。</p> 
課題・改善	<p>・どの学校も、未然防止、早期発見、早期対応を心掛けて全教職員が協力し合って取り組んでいる。いじめ防止対策推進法をもとに認知や報告について市として再確認していかなければいけない。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。</p>

事業・研修会名	3－(2) 生徒指導主事等研修会
内容・方策	<p>生徒指導主事等の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。児童生徒を9年間で育てるという視点から、小・中連携の意識を高め、演習は中学校区ごとのグループで情報交換や生徒指導上の課題の共有を図る。</p> <p>【第1回 5/17】「児童生徒の理解について」 講師：黒部市教育センター 特別支援教育コーディネーター 林 真奈美 先生</p> <p>【第2回 6/16】「人間関係づくりの実際について」 講師：明峰中学校 カウンセリング指導員 藤田 秀樹 先生</p> <p>【第3回 11/10】「不登校・不登校傾向の児童生徒への組織的な対応及び保護者との信頼関係づくり～いじめ問題に関する現状と課題から～」 講師：東部教育事務所 生活指導主事 植野 昌弘 先生</p> <p>【第4回 2/14】「生徒指導上の諸問題及び保護者等の対応について」 講師：東部教育事務所 主任生活指導主事 梶尾 徹 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【第1回】5月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童生徒の特性やその支援の仕方、実態の把握の仕方について、生徒指導の枠組みを広げ、特別支援教育との連携を図りながら支援していくことの大切さを学んだ。 ・健全活動少年団顧問会の開催 黒部市防犯協会 山田事務局長 参加 <p>【第2回】6月16日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の人間関係を築くため、児童生徒一人一人の居場所を確保するために人間関係プログラムを参加者全員で行う。継続して行うことの大切さを学んだ。 <p>【第3回】11月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめによる不登校について教師間の連携、情報共有、チームで対応することの大切さを事例をもとにお話いただいた。生徒指導の根底には、児童生徒理解があることを改めて確認した。 <p>【第4回】2月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の子供や保護者への対応の仕方を振り返るよい機会となった。年度末に向け地区ごとの情報交換を行うことができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ごとの情報交換の時間を確保し、話し合いがなされた。今年度は、事例研修や、生徒指導上の課題について意見交換するような時間をつくることができなかった。学校にとって要である生徒指導主事が集まる貴重な場なので、さらに力量を高める時間も取り入れたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

事業・研修会名	3－(3) 教育相談の充実と体制づくり																																	
内容・方策	<p>教育支援センター「ほっとスペース」と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者、児童生徒、教員の悩みや課題の解決に向けて支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者向けの教育相談の案内を学校を通じ、年3回配付する。 ○ 保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や児童生徒の支援にあたる。 ○ 市教委・市教セによる訪問や学校訪問において、教員の悩みや課題を把握し、要望に応じて継続的な支援に繋げる。 																																	
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数と主な内容（令和6年2月末現在） <table border="1" data-bbox="440 842 1398 1077"> <thead> <tr> <th>相談機関</th> <th>相談者</th> <th>面談</th> <th>電話</th> <th>メール</th> <th>小計</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育支援センター</td> <td>保護者（家族）</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>34</td> <td rowspan="3">87</td> </tr> <tr> <td>ほっとスペース</td> <td>学校関係者（担任・生指・SSW他）</td> <td>10</td> <td>41</td> <td>0</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>あゆみ</td> <td>その他（卒業生・未通所者等）</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>教育センター</td> <td>保護者（家族）</td> <td>7</td> <td>19</td> <td>1</td> <td></td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※教育センターへの学校関係者の相談は3-(6)参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校不適合問題、学校や担任との関係等、寄せられた相談内容については、しっかりと受け止め丁寧に対応するように努めた。緊急性のある相談内容については、相談者の了解のもと市教委や学校に連絡するなど、迅速な連携を心がけた。 ・カウンセリング指導員が教育支援センターを定期的に訪問し、本人と関わることにより、学校への登校につながった。 ・教育支援センター指導員やSSWとの連携を密にし、効果的な支援につなげた。 ・保護者からの相談電話では、教育相談の案内を見て連絡される保護者が多かった。保護者の不安や悩みを受け止める場の一つとして、有効であると考えている。 	相談機関	相談者	面談	電話	メール	小計	計	教育支援センター	保護者（家族）	30	4	0	34	87	ほっとスペース	学校関係者（担任・生指・SSW他）	10	41	0	51	あゆみ	その他（卒業生・未通所者等）	2	0	0	2	教育センター	保護者（家族）	7	19	1		27
相談機関	相談者	面談	電話	メール	小計	計																												
教育支援センター	保護者（家族）	30	4	0	34	87																												
ほっとスペース	学校関係者（担任・生指・SSW他）	10	41	0	51																													
あゆみ	その他（卒業生・未通所者等）	2	0	0	2																													
教育センター	保護者（家族）	7	19	1		27																												
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容によっては、市教委や関係機関と連携して対応していく必要があり、連絡を密に取りながら協力体制を整えておきたい。 ・相談を受けて対応した事案のその後が分からないことが多く、事後に保護者対応が生じた場合を考え、共通理解が必要である。 																																	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。 																																	

事業・研修会名	3－(4) 不登校児童生徒に関わる取組、教育支援センターの充実
内容・方策	<p>教育支援センター「ほっとスペース」において、通所している小・中学校の不登校児童生徒やその保護者に対して、学校と連携を図りながら様々な指導、支援を行い、児童生徒の集団生活や社会生活への適応、社会的自立への足がかりとなるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通所児童生徒の実態に即し、成長に役立つ活動を実施する。 ○ 相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。 ○ 関係小・中学校及び市教委、関係機関と連携しながら児童生徒の支援を行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度通所した児童生徒 13名（小学生8名、中学生5名）である。 ・通所している児童生徒の状況に合わせ、個別の指導計画を立てて指導にあたった。市教セから教育支援センターに適宜訪問し、指導員とこまめに連絡・相談することにより、児童生徒や保護者への適切な支援・対応に努めた。また、在籍校には、月ごとに出席日数及び児童生徒の活動報告を届けた。 ・学期の始めには、通所児童生徒への支援・対応について情報を共有した。 ・教育支援センターにおいて、総合教育センターからの訪問を年に3回実施し、児童生徒の支援について実際に学んだ。 ・月に1回程度、保護者と指導員等、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けている。参加者は、延べ31名。 ・毎月、各学校の欠席の多い児童生徒数を取りまとめ、黒部市全体の結果を市教委や校長研修会で報告し、課題や成果を情報共有した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センターと学校との連絡やケース会議が時間の関係上十分にとれない。発達障害等の特性をもつ児童生徒が増えてきているので、職員も専門的な知見を身に付けるための研修も必要である。 ・特別支援教育コーディネーターや中学校のカウンセリング指導員・協力員との連携や相談員の研修への参加により、一人一人に応じた効果的な支援に繋げていく必要があるが、日程調整が難しく、なかなか日常化できない現状にある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

事業・研修会名	3-(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進
内容・方策	<p>不登校やネグレクト等の学校・家庭が抱える課題に対応するため、SSWを派遣し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各中学校及び教育センター所属のSSWが学校の要請に応じて、家庭訪問したり電話連絡したりして、問題を抱える児童生徒やその保護者との面談を行う。 ○ 関係機関等とのネットワークを活用し、学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等について協議し、支援内容を学校に連絡したり、学校で一緒に協議したりする。 ○ SSWが小・中学校を訪問し、SSWの役割についての説明や活用促進の呼びかけを行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p><板東SSW> 2中学校区所属 清明中学校と校区の小学校、明峰中学校と校区の小学校を基本として巡回勤務した。 3月末までの勤務見込み 県 420 時間 働きかけをした対象者(実数) 児童生徒 31 名、保護者 15 名</p> <p><能沢SSW> 教育センター所属 年間を通して明峰、清明中学校を勤務の基本として対応した。 3月末までの勤務見込み 県 105 時間 働きかけをした対象者(実数) 児童生徒 2 名、保護者 0 名</p> <p><神子いじめ対策SW> 教育センター所属 1 学期は清明中学校を中心に、2、3 学期はいじめ対応の相談がある小学校に勤務した。県 44 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や面談、家庭訪問により児童生徒や保護者に働きかけたり、教員に助言したりすることを通して、学校不適應の状況改善に繋げることができた。 ・就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にSSWの役割について広く知らせることができた。 ・社会福祉協議会主管の「くろベネット」によるケース会議や学校のケース会議にも参加し、支援体制づくりを行った。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の計画表を学校に事前に配付する。 ・各校への定期的な巡回 は基本とし、必要な学校には連絡・調整を図りながら、重点的に支援できるような体制を整える。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和 6 年度も継続する。

事業・研修会名	3-(6) 特別支援教育コーディネーターの活動								
内容・方策	<p>特別支援教育の対象となる児童生徒やその家族が、必要な配慮やサポートを受け、将来を見据えた学校生活を安心して送ることができるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の相談窓口となる。 ○要請に基づいて学校へ訪問し、担任や関係者の支援(コンサルテーション)を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のアセスメント(聞き取り、行動観察、諸検査等)を行う。 ・児童生徒への接し方、学習環境、校内体制等について、具体的、継続的な支援を行う。 ・必要に応じて保護者面談に参加する。 ○研修会等を通して、特別支援教育に関する理解・啓発を図る。 ○地区相談会、市教育支援センターのケース会議、市特別支援教育コーディネーター研修会、市教育支援委員会に参加し、関係者や関係機関との連絡調整に当たる。 								
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の相談 → 3-(3)教育相談の充実と体制づくり 参照 ・学校支援(令和6年2月末現在 市教育支援委員会関係は除く) <table border="1" data-bbox="587 1144 1369 1272" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>担任等支援</th> <th>保護者面談</th> <th>検 査</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">32</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・市スタディメイト研修会、市生徒指導主事研修会、市中教研特別支援教育部会、魚津地区センター協議会特別支援教育研修会において、講師として理解啓発に努めた。 ・保護者や担任、関係者からの相談に対しては、それぞれの立場を尊重しながら話を聴き、事実関係を確認して、解決志向で話し合うことができた。保護者からの相談では、承諾を得た上で学校との連絡調整を行い、次の支援体制へつなぐことができた。 ・学校での保護者面談や、放課後デイサービス施設の見学等では、SSWと連携してして対応することができた。 	担任等支援	保護者面談	検 査	計	32	6	2	40
担任等支援	保護者面談	検 査	計						
32	6	2	40						
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援を行った後の校内の支援体制の見直しや、児童生徒の様子について、継続して情報共有を行う。 ・次年度小・中学校へ入学する児童生徒の個別相談、学校見学、校内体制の整備等については、各関係者との連絡・調整を積極的に図り、連携を強化する。 								
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。 								

事業・研修会名	3-(7) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校（園）訪問において、幼稚園、小学校・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。 ○ 中学校区ごとに生徒指導や教科指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、各種研修会での情報交換の在り方を工夫する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導に関する研修会や協議会においては、中学校区ごとにグループを編成し、小・中学校教員が情報交換や指導方針を共有できるようにした。 ・ 各校の生徒指導におけるケース会議において、SSWや中学校のカウンセリング指導員・協力員が参加して、情報を共有し、切れ目のない指導・支援ができるように配慮した。 ・ 外国語教育研究委員会、情報教育研究委員会等において、小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流できるよう配慮した。 ・ 幼稚園での訪問研修では小学校との連携・接続、小学校の訪問研修では中学校への連携・接続を念頭に置いた情報交換を行った。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の教育が小学校低学年の学習に円滑に接続されるように、小学校の通常訪問において、接続の視点をもって指導助言にあたる。 ・ 生徒指導主事等研修会や特別支援教育研修会等で、小・中学校の切れ目のない指導・支援を意識して、研修会や研究委員会等の内容を設定していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

4 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	4－(1) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小・中学校の児童生徒の学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○ 全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、校長研修会で概要を報告する。さらに報告書としてまとめ、各学校に配付する。報告書は小・中学校における学力向上のための参考となる内容にする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和5年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）や児童生徒質問紙調査の結果について、その概要を冊子にし報告した。 ・結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」「国語と算数・数学、英語の相関関係」「児童・生徒質問紙調査結果と各教科の調査結果との相関関係」「児童生徒質問紙調査の経年比較」等を示し、小・中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。各教科の問題については、全国と比べて平均正答率が低い問題について分析し、提供した。 ・教科に関する調査においては、小学校は、国語及び算数で全国の平均正答率とほぼ同程度。中学校は、国語、数学、英語ともに全国平均を上回った。 ・国語科では、小中学校とも筆者の考えから自分の考えをまとめて書くという問題に課題が見られた。算数科、数学科とも図形に関する問題に課題がみられた。英語科はリスニングの問題は全国に比べ平均を上回っていた。長文読解に課題が見られた。 ・児童生徒質問紙調査においては、教科の学習に対する意識、学習への意欲という点に課題があることが分かった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小・中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供できるように、校長研修会や教頭会、教務主任会等でどんなデータが必要なのか意見を聞き、報告書に反映していくようにする。活用については、実際に各校の研修に携わる研究主任や教務主任に周知し各学校の実態を情報交換する機会が必要であると考えます。 ・総教セのアラカルト研修でも指導は効果的だった。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

事業・研修会名	4-(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国が実施している「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や富山県が実施している「令和5年度富山県児童生徒体力・運動能力調査」を生かし、市内小・中学校の児童生徒の体力・運動能力の向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○ 今年度から体力測定結果をタブレットで入力して県に報告しデータを共有できるようになった。学校ごとの結果もデータで県からくるようになった。市としてのおおまかな結果のみを連絡することとする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果を「令和5年度体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果の概要」としてリーフレットでまとめ、各校に配付した。報告が年度末になるため、この結果をどう生かしていくかは、来年度に向けた各校の教育計画につなげていかなければいけない。黒部市としての取組は、以前は体育主任等を集めた研修会を開き、体力の向上に向けて検討されていたが、現在はされていない。 ・タブレットでの個人結果入力により、各校への県からの報告は11月くらいまでにはいくと思われるので、それぞれの学校で結果をもとに課題をあげ、対応策を考えて実践していくのか効果的と思われる。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の結果を来年度の教育計画に生かすことができるように、なるべく早く結果の概要を知らせていく。また、黒部市としての課題改善を進める場合は、体育主任等で意見交換をするなど、結果を活用する場を設定していく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も細かい分析はせず、結果のみの報告とする。

事業・研修会名	4－(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）									
内容・方策	<p>授業で観察することができない夜空や太陽系惑星、恒星など天体の見かけの動きをプラネタリウムで見ることにより、宇宙や天体への興味・関心を高め、理解を深める。</p> <p>○学校、吉田科学館、教育委員会（スクールバス運行）と連絡調整をし、小学4年生・中学3年生のプラネタリウム学習が円滑に行われるよう計画、反省等を行う。</p>									
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加校 6月～9月 小学校4年生 9校（307人） 1月 中学校3年生 2校（360人） ・事前研修会参加人数 小学校5名 ・教育委員会には、学校や児童生徒の状況に合わせたスクールバスの配車に配慮していただいた。 ・マニユアル投映の効果 <table border="1" data-bbox="485 965 1310 1099"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">小学校</td> <td style="text-align: center;">中学校</td> </tr> <tr> <td>大変参考になった</td> <td style="text-align: center;">8校</td> <td style="text-align: center;">2校</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td style="text-align: center;">1校</td> <td style="text-align: center;">0校</td> </tr> </table> <p><その理由></p> <p>小学校：既習内容の復習としての位置付けだったが、実際の空の様子で確認ができ、理解が深まった。星の動きが分かりやすく、それに伴った解説があり、児童にとって分かりやすかった。星について興味をもった児童が増えたように思う。</p> <p>中学校：教科書の絵や図だけでは2方向的な見方で理解しにくい内容を、映像で3方向的な見方で学ぶことができた。天体の学習では、天体の動きを立体的に捉えられるようになることが必須であり、プラネタリウムで空間把握を視覚的に認識するのに役立った。</p>		小学校	中学校	大変参考になった	8校	2校	参考になった	1校	0校
	小学校	中学校								
大変参考になった	8校	2校								
参考になった	1校	0校								
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は、対象学年の担任が毎年代わる人が多いので、事前研修会は今後も続けていく。 ・児童生徒にとって充実した学習になるように、学校の要望を踏まえつつ、内容や日程については科学館と、スクールバスの運行については市教委と連絡調整をしていく 									
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。 									

5 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	5-(1) 情報提供
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>① 不審者情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小・中学校に連絡する。 (熊情報については市教委から連絡する)</p> <p>② 報告書や資料の作成については、市教委や各部長(担当校長)と連携しながら取り組む。</p> <p>③ 教育センターだよりを発行し、市内の教員や学校の取組の紹介、市内の教育の動向や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、情報が入ってきたものは市教委と連携し、内容について相談しながら、確実に対応することができた。今年度9月からは、黒部市教育センターから市内の全保護者に不審者情報の安全メールを流すこととした。(10回) <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等、関係機関に相談しながら進めた。市教委や校長会等、関係機関からは、様々な助言をいただき、それらに基づいて報告書や提案を改善した。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターだよりやHP等を通して、教育センターでの研修をはじめとして、新規採用教員の紹介や教育委員、退職校長からの教育への思い、学力向上拠点校での取組、教員の研修報告等、幅広く紹介することができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、迅速な対応が求められる。最近では保護者が直接警察に連絡し、警察からの安全メールが流れ、それを受けて教育センターから学校の安全メールを流すことが増えた。新年度に全保護者に警察の安全メールへの登録を再度促すようにしたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

事業・研修会名	5－(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷
内容・方策	<p>学校行事の運営支援や教育指導、教員研修の質的向上に資するために、書籍や教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりといった教育サービスを行う。</p> <p>○ 視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。 ○ 大型プリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。 ※2月末の数値。()内は前年との比較。 <li style="padding-left: 20px;">◇視聴覚教材 <u>74件 (+67)</u> <li style="padding-left: 20px;">◇プロジェクター等の教具 0件 (±0) <li style="padding-left: 20px;">◇WISC-IV等の検査類 4件 (-1) <li style="padding-left: 20px;">◇教科書 72冊 (-4) <li style="padding-left: 20px;">◇書籍 <u>112冊 (+81)</u> ・大型プリンターによる印刷物の作成 <ul style="list-style-type: none"> ◇垂れ幕 14件 (±0) ・新規に購入した書籍・教材等については、「おすすめ書籍」として、教育センターだよりに載せ印刷・配付して周知に努めた。 ・本棚に種類ごとに整理して見やすい展示となるように工夫し、研修会の際に宣伝した。 ・視聴覚教材や書籍の周知を促すために、研修会後に貸し出しを進めたり、広報を兼ねた貸し出しを行ったりして効果があった。貸し出し数は増加したが、期限をしっかりと示さなかったので、返却されず、年度末の回収に時間がかかった。 ・大型プリンターによる印刷については、職員の連携により、迅速に対応し、依頼の翌日には各校へ提供できるように努めた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学期初め等に視聴覚教材や書籍の希望を呼びかけているが、必要感に迫られないためか要望が少なかった。時期を変えて要望を聞いてみるようにしたい。 ・資料をデータでほしいという声が増えているので、学校共有間に「お助け箱」をつくって資料提供している。 ・現場で役立つ資料の用意ができるように、最新の教育課題をもとに調査を進め、整備を行うとともに、さらなる広報活動の工夫が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和6年度も継続する。

